

かゑらじと かねて思へハ 梓弓  
なき数に入る 名をぞとどむる  
四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第69号

平成30年5月8日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

楠正行絵本、二つの図書館で閲覧はじまる

電通大・社会プロジェクト実習第二弾は正行カルタ

読后感想ノートにうれしい反応一杯

3月19日、大阪電気通信大学で開催された『楠正行シンポジウム』第2部の絵本贈呈式で、四條畷楠正行の会が大阪電気通信大学に制作依頼して完成した楠正行絵本6巻本が四條畷市に贈られました。

そして、この絵本は4月から四條畷図書館と田原図書館で広く市民に閲覧が始まりました。

写真は、田原図書館の一角にもうけられた絵本6冊です。図書館の職員の話では、多くの方が読んでいかれるとのことでした。



この絵本コーナーには、「読まれた方のご感想をお聞かせください。」と読后感想ノートがおかれています。多くの書き込みがあり、嬉しい限りです。一部、ご紹介します。

● 正行の事に興味がわいてきた ●

- ◆知らないことがいっぱいわいてあって勉強になりました。(4/15)
- ◆地元に住んでいてもなかなか知る機会がなかったので、絵本で読ませていただき、とても勉強になります。四條畷やここ田原にも広めていただきたいと思います。(4/16)
- ◆今まで知らなかったことも絵本で読みやすくなったのでよく分かりました。正行の事に興味がわいてきたので、もっと知りたいと思いました。(4/19)
- ◆この本で楠正行という武将を知ることができました。

四條畷合戦で自害するまで、幼少時代、恋の話等、読み易い本になっていました。如意輪寺、小楠公墓所等を訪れてみたいと思いました。(4/22)

◆楠正行の事を知りませんでした。この人の一生を分かりやすく書かれていて勉強になりました。渡辺橋の近くに行ったときには碑を見たいと思います。(4/29)

◆楠正行という武将の名前は知っていましたが、詳しい人物像：エピソードなどあまり知らなかったため、絵本という読み易い本のため、スーッと入っていくことが出来、わかりやすく、本にでてきた場所を訪ねてみたいになりました。(4/29)

特別バスツアー、2日にわたって開催



四條畷市では、ふるさと納税お礼品として、「春を楽しむ・歴史を楽しむ 楠正行を訪ねる特別バスツアー」を企画、四條畷楠正行の会がこのツアーのコーディネート

を担当、4月24日(火)と26日(木)の2日間にわたって実施しました。

24日は南大阪・奈良ルートで、12名の招待客と産経新聞社安本特別記者、市職員3名、正行の会2名の総勢18名で、建水分神社(正式参拝・禰直講話・扁額見学)、楠妣庵観音寺(母子像・菊水逆家紋・楠妣庵)、観心寺(住職講話)そして如意輪寺(正行公670年忌法要・住職講話・宝物殿・辞世の扉見学)と訪ねました。



26日は北大阪・京都ルートで、15名の招待客と産経新聞安本特別記者、市職員3名、正行の会2名の総勢21名で、櫻井の駅跡（明治天皇御製碑・島本町立歴史文化資料館）、宝篋院（住職講話・正行墳と義詮墓参）、東寺（後醍醐天皇見返りの松鑑賞）、正行寺（住職講話・正行正時の墓参）と訪ねました。

バス車中では、講師役を勤めた扇谷が正行の生涯や四條畷の合戦について、配布資料を基に詳しく説明しました。また、特別参加いただいた産経新聞安本特別記者も、2日にわたって車中で講義をして頂きました。

建水分神社では普段見ることのできない本殿の特別拝観と正行直筆の扁額の裏書鑑賞、楠妣庵観音寺では楠妣庵の扉を開けていただいたの室内鑑賞、観心寺では中院での住職講話、如意輪寺では本堂での正行公670年忌法要、宝篋院では正行墳と義詮墓の墓前での住職講話と、特別感満載に、ご参加いただいた皆さんに喜んでいただいたようです。

それにしても、宝篋院のある嵯峨野の観光客の多さ、そして外国人の多さに圧倒されました。一時、市営駐車場入り口付近が身動きとれず、マイクロバスの駐車に何十分も費やし、昼食をあきらめかけるという一幕も。

ご参加の皆さんお疲れ様でした。

写真：前pから、普段見られない建水分神社の本殿、楠妣庵観音寺では久子の方の草庵とその内部も開放、宝篋院に残る楠正行木像と本堂の菊水紋の入った瓦



## 4/25 電通大でカルタ大会

四條畷楠正行の会がクライアントとなって、大阪電気通信大学総合情報学部・ゲーム&メディア学科の木子香准教授の教室との社会プロジェクト実習第2弾、『楠正行カルタプロジェクト』が4月25日スタートしました。

この日、木子准教授の下に集まった学生21人と四條畷楠正行の会が初めて対面。



扇谷から、初年度の絵本制作の成果を踏まえて、楠正行への理解がさらに深まることを目的に「正行カルタ」制作の狙いと意図を説明し、四條畷郷土史かるた（復刻版）を使っ

てのカルタ大会となりました。

てのカルタ大会となりました。教室の中央に絵札を取る7人の学生が集まり、その周りにその他の学生や正行の会、市職員が遠巻きに見学する中、扇谷が字札を読み上げながらのカルタ大会となりました。

絵札が取り上げられる毎に、絵札にまつわる四條畷の歴史や文化などを紹介しながら、カルタ遊びを通じて学ぶことを体感してもらいました。

最高の絵札12枚を取り上げた学生には、サプライズの景品（お菓子）もあり、大いに盛り上がりました。

5月12日（土）には最初の学外学習で吉野山如意輪寺に訪問予定です。また、楠正行の生きざまや生き方、その人間像、更にはその生涯での出来事等の講義は、5月23日と30日に予定しています。

30日の講義では、詩吟の世界で詠われる楠正行に関する詩吟の放吟も計画しています。

今年も、楽しく楠正行について学んでもらいながら、それぞれが絵札制作・字札制作・箱のデザインと制作・しおりの制作などの役割グループに分かれて11月ごろの完成を目指します。

完成までに、10月ごろ、市内の小学校に出かけ、試作のカルタを使ったカルタ大会で初めてのお披露目となる予定です。乞う、ご期待ください。

写真：教室で行われたカルタ大会で大いに盛り上がる

## 談山神社、春のけまり祭に招待を受ける

4月29日（祝）、奈良県桜井市の談山神社で行われた「春のけまり祭」に招待をいただきました。

談山神社では、藤原鎌足が蹴鞠を通じて、中大兄皇子と水魚の交わりを結ぶこととなり、やがて談山（かたらいやま）にて中大兄皇子と「大化の改新」を談じ



合うきっかけとなったといわれる故事にちなんで、毎年、4月29日に行われるものです。

本殿で行われた「春のけまり祭」には扇谷が出席、祭典後けまりの庭に場所を移して行われた蹴鞠には、好天も幸いし、境内を埋め尽くした観覧者は、蹴鞠演技を一喜一憂しながら見守りました。写真：けまりの様子



蹴鞠保存会のメンバーは、「境内の微妙な傾斜が、けまりの飛ぶ方向に大きく影響します。」と説明する中、何回もけまりの演技が続くと大きな拍手が送られました。

なお、談山神社には後醍醐天皇が奉納したと伝わる灯籠があり、直会の席上、「南朝ゆかりの神社ですよ。」と、長岡宮司から私たちに話がありました。

（文責「四條畷楠正行の会」代表 扇谷昭）